

# 改革の行方

～府大改革の今までとこれから～

中百舌鳥キャンパス学生自治会

# 目次

この冊子には、府大の未来を左右する府大改革について掲載されていますので、ぜひお読みください。そして、府大の未来をよりよいものにしていくために、意見箱 BOX や今回のアンケートなどを通じてみなさんの府大改革についての考えを学生自治会にお伝えください。ともに府大のありかたについて考えていきましょう。

## P.02 学部再編問題～私たちの学部の行方～

現行の大学改革案における学部再編についての解説と、改革に対する大学関係者の意見の抜粋

## P.06 改革の経緯と改革に関する学生自治会の活動

2009年2月の大学改革の発端から、2010年5月の公開シンポジウムまでの改革の推移とその間に行った学生自治会の活動

## P.11 学長の改革に対する考えと想い

5月に行われた学長会見で、学長をはじめとした大学執行部と学生自治会の間で交わされた質疑応答のまとめ

## P.17 学生自治会から大学への提言

6月に行われた前期自治委員会総会で決議された内容に基づく、大学改革に対する学生の意見についてのまとめ

## P.20 改革についてのアンケート結果

昨年12月に実施した、中百舌鳥・りんくうキャンパスの学生を対象とした大学改革についてのアンケート結果

## P.26 公開シンポジウム～大学改革に望むこと～

5月の友好祭初日に行われた公開シンポジウム「大学改革に望むこと」の内容についてのまとめ

# ～学部再編問題～

## 私たちの学部の行方

### 〇はじめに

橋下府知事に公立大学としての必要性に疑問を呈された大阪府立大学（以下、府大）は昨年12月3日に大学改革案を発表しました。この改革案では、平成23年度に現行の7学部を理系中心の4学域（現代システム科学域、工学域、生命環境科学域、地域保健学域）に再編するとしています。

大学改革案にはさまざまな分野の改革が示されています。その中でも、学生にとって最も関係の深い学部再編問題を改革案に示された5つのキーワードを基に学生自治会独自に解説します。

注) 斜体文字の部分は p. 9 に用語説明がありますので、参照して下さい。

### 1. いま、なぜ改革か

府大は改革を行う理由として以下のことを挙げています。

#### 教育研究体制の検討

平成17年度の大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学の府立3大学統合に伴う学部再編を乗り越えたが、次期中期目標に向け検討課題となっている教育研究体制の検討がなされていないため。また国立・私立との役割分担の明確化のもと、公立大学の存在意義を念頭に独自性を追求し、特色ある大学づくりとして理系を強化した高度研究型大学にし、さらなる教育研究の質を高めるため。

府大改革は、昨年9月の大阪府戦略本部会議で次のような指摘があったことが発端です。

理、経済、人間社会学部で行われている学問が大阪市立大学をはじめ多くの大学でも展開されている分野であり、重複感があると府からの指摘がありました。また理学部は他の理系学部 비해基礎研究主体で産学連携実績が少ないとの指摘もありました。（府立大学のあり方資料参照）

また、この改革を行うことで府からの運営費交付金を節減することを目標にしています。（大学改革案 8. 法人のマネジメントが変わる①参照）

## 2. 大学改革の基本方針

～「選択と集中」による大学改革～

府立大学のあり方資料の中で国立・私立との役割分担の明確にし、公立大学の存在意義を念頭において、特色ある大学づくりを目指すべきとの指摘があった。その実現のために府大は、経営者ジャック・ウェルチが提唱した「**選択と集中**」という発想のもと、公立大学が総合大学である必要性を考え直す必要がある、という結論に至った。

府大は「時代の変化に合わせて、様々な分野に及ぶ専門知識と実践力を持ち社会をリードする人材を育成する」というのがこの大学の使命であるという風に考えました。

## 3. 教育組織の変革

上記の基本方針の下、府大は学部を再編することを決め、以下のような目標で進めていくとしました。

- ① 従来の学部・学科という壁をはずし、教育・研究をより柔軟に展開する組織として「**学域・学類**」制度を導入する。余裕のある学生は副専攻も取得できるようにすることで多分野にわたる知識を持つ人材の育成、府大の従来の強みである理系を中心とした技術系人材の養成を行う。
- ② 既存の7学部が持つ「高度研究型大学」としての質の高い教育研究を基に「**現代システム科学域**」をコアとした4学域体制へ移行する。

大学は、この改革を行うことで理系学問を専攻しながらも文系学問のスキルをつけた幅広い知識を持った人材を育成し、理系を強みとする理系中心の大学にしていく予定でいます。また、府の大阪府立大学の改革指針によると、この大学は具体的に次のような大学になると示されています。

- 複雑化、高度化し、急激に変化する時代・社会のニーズに柔軟に対応できる教育研究体制を確立するため、旧来の“学部・学科”体制からより幅の広い“学域・学類”体制へと転換を図る。
- 基本となる教育研究組織は、人材育成や研究開発においてさらなる高みを目指して、「先端技術」、「環境」、「健康」といった分野に重点化し、4学域体制に変える。
- 「工学域」、「生命環境科学域」、「地域保健学域」については、現学部の教育研究の継承を基本として、より幅を持たせるものとする。
- 「現代システム科学域」については、専門性と実践力はもとよりマネジメントや国際性を兼ね備えた新しい科学技術系学生の育成が必要になるとの観点から、理系をベースに文系を融合させ新たな領域として構成する。また、「現代システム科学域」の人材育成の理念を全学に広めるため、他学域に副専攻でカリキュラムを提供する。

## 4. 学域と学類の名称

大学から示された改革案では下記のような学域・学類になると示されました。名称は仮称で、学類の下に現在の学科のような課程が設置されます。

学域	学類
現代システム科学域	知識情報システム学類 環境システム学類 マネジメント学類
工学域	電気電子系学類 物質化学系学類 機械系学類
生命環境科学域	獣医学類 応用生命科学類 緑地環境科学類 自然科学類
地域保健学域	看護学類 総合リハビリテーション学類 教育福祉学類

## 5. 現代システム科学域の設置趣旨

環境問題など限られた分野では解決が困難である問題に立ち向かうためには

- ・ そういった諸問題の現状とその原因を理解できる「グローバルな理解力」
- ・ 複数の専門知識を利用してその問題の解決を図る「システムの思考力」

の養成が急務と大学は考えている。

これまで大学は限られた分野での高度な技術力中心の育成しかして来ず、複数の分野にまたがる発想・研究などはほとんどして来なかった。そこで大学は現代システム科学域を設置することで、環境政策、国際関係学、情報理論、マネジメント手法といった幅広い分野の基礎知識を習得させ、様々な課題を横断的に分析し、解決できる人材を育成するとした。

## ○みんなの意見！

ここでは府大改革に対する様々な意見をのせています。

- ・経済学部のように他大学と同じ名称の学部があっても、研究内容や教育目標、教育方法は各大学で違いがあります。また、異なる理念・目的の基に教育・研究を行っている理系三学部を産学連携という一つの基準で評価することは適切でないと思います。
- ・入試制度はどうか。学類それとも課程で入試を行うのか？
- ・改革についての大学の自主性、自立性を尊重すべきである。
- ・本年度の大学入試において、全国的に国公立大学への志願者数が増えているのに、府大は学部全体の志願者数が前年比 10%減となった。20.2%減の文系 2 学部だけでなく、理系 3 学部も 6.9%の減となり「性急な改革議論が原因で敬遠されたのでは」という指摘が出ています。

## ○おわりに

大学は、現在の学部については必要な期間存続させ、平成 23 年度入学生まではたとえ留年しても「総合大学の府大」の学生として卒業できる、としています。また、大学院については平成 23 年度も現行の専攻を続けるようです。

学生は大学の構成員の一部です。学部再編は学生にとっても非常に重大な問題です。学生の意見が改革案に取り入れられることで、よりよい大学になるはずで、そのためには、学生自身が意見を発していくことが大切です。一人一人の声は小さくても、多くの学生が声を合わせることで大きな力となります。ぜひ学生自治会まであなたの声を届けてください。

## ○大学改革に関する参考 URL

### 大学改革案の詳細

<http://www.osakafu-u.ac.jp/news/001609.html>

### 「大学改革案について」学長からのメッセージ

<http://www.osakafu-u.ac.jp/news/001608.html>

### 府大の大学改革に関するページ

<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/change/index.html>

### 大阪府の府大に関するページ

<http://www.pref.osaka.jp/shigaku/fu-daigaku/index.html>

このページでは大学改革の一連の流れ、大阪府や大学の動きなどが○、改革に対して学生自治会が行ってきた活動（太字の部分）が●で書かれています。さらに、これからの改革の流れを報告します。

注）斜体文字の部分は p. 9 に用語説明がありますので、参照して下さい。

## ◎改革の経緯と改革に関する学生自治会の活動

### ○2009年2月10日（火） 橋下知事、府大の運営費交付金の廃止検討を公表

橋下知事がこの日の記者会見で、大阪府立大学への年間108億円にも上る運営費交付金の廃止や、大学の存廃・市大との合併も含めて検討していることを明らかにしました。この記者会見の中で知事は、府民や大阪府にとって、大阪府立大学そのものが本当に必要であるのかどうか、その存在意義に疑問を呈しました。

### ●2009年4月 運営費交付金の廃止撤回を求める署名活動

学生自治会では、知事の公表した運営費交付金の廃止という案の撤回と交付金の現状維持を求める署名を行いました。その結果、計3781名の方に署名をしていただきました。

### ○2009年9月8日（火） 大阪府戦略本部会議にて「大阪府立大学のあり方」が話し合われる

この中で、大阪市立大学を始めとする大阪府内の大学の多くが、府大の経済学部や人間社会学部や理学部と類似する学部を運営しており、重複感が否めないという指摘がありました。

### ○2009年10月20日（火） 府大が理系に特化する学部再編案を検討しているとの新聞報道

新聞などで、大阪府立大学が理系に特化した学部再編をコアとする、大学改革を検討しているという報道がありました。その改革によって、現在の7学部が4学域に再編され、学生や教職員の削減も行い、府が支出している運営費交付金を年間約20億円程度節減できる試算であることも報じられました。

また、報道を受けてこの翌日、大阪府立大学のホームページに学長から在學生や受験生に宛てたメッセージが掲載されました。しかし、その内容は、大学が現在の在學生に対しての教育については卒業まで責任をもって行うということと、改革の具体的な情報を伝えるものではありませんでした。

●2009年10月30日（金）『「大学による学部再編の検討」に対する抗議』を提出

学生自治会は、この大学改革に関して、学生が学内で説明を受けることなしに報道先行で知ることになったことに対する抗議文を提出しました。また、この抗議によって学生諸団体の代表と学長との会見が行われました。

○2009年12月3日（木） 大学が大阪府に「大阪府立大学改革案」を提出

●2009年12月13日（日）冊子「ご存知ですか？府大改革」を発行

大学が3日に発表した改革案を、学生自治会が独自に分かりやすくまとめなおし、この改革案について学生に広く周知するために冊子「ご存知ですか？府大改革」を発行しました。また同時に改革の各項目に関して、学生がどのように考えているのかを把握するためにアンケートを実施しました。アンケートの回収枚数は約180枚と少ないものでしたが、よく考えられた意見が多く、アンケートの多くは「学部再編」を中心として改革に反対する意見が多く集まりました。このアンケートの結果はp.20に掲載されています。また、このアンケート結果は今年の2月に行われたシンポジウムや府の教育常任委員会における知事への質疑で使われました。

○2009年12月15日（火） 大阪府立大学が大学改革推進本部を設置

大学改革の具体化を推進するために大学改革推進本部を設置しました。

○2009年12月16日（水） 大阪府戦略本部会議

平成21年度第27回大阪府戦略本部会議で提出された改革案について学長を交えて、議論が行われました。

学長は、公立大学の使命は社会をリードする人材を育成することだと断言し、学部をなくして学域にすることの意味について説明しました。また、新しい府立大学は学生に経済学の文系学問だけを追及させていくのではなく、新しい「学域」という中で、社会のリーダーになる者が備えるべきこと、経済学や哲学やいろいろな文系の学問をミックスした形でやっていくという方針を明らかにしました。

○2009年12月21日（月）学長による改革案についての説明会開催

C1棟学術交流会館で18時から行われたにもかかわらず、多くの学生・教職員・一般市民の方に参加いただきました。はじめに学長からこの改革案の概略の説明と補足があり、それに対する質疑応答が行われました。また、この説明会の模様は羽曳野キャンパス・りんくうキャンパスにも生中継されており、各キャンパスからでも質問することが可能でした。

## ○2010年2月 大阪府立大学の改革指針（案）公表

大阪府が、「大阪府立大学の改革指針（案） 変革と挑戦」を公表しました。これは、大学側が提出した改革案を基にして府によって作られたものであり、改革案より具体化されている内容が記載されています。

## ●2010年2月27日（土）「大阪府立大学問題を考える会」シンポジウムに学生自治会委員長がシンポジストとして参加

## ○2010年3月19日（金） 教育常任委員会にて行われた知事に対する質問

この日の教育常任委員会にて、共産党 山本陽子議員が、学生自治会が12月に実施したアンケート結果を引用して橋下府知事に質問しました。この中で知事は、大学の重要な構成員としての学生の権利を否定するような発言をしました。以下引用

知事「大学生なんてまだまだ人生経験少ないですし、黙ってついてこいと、そういうことをはっきりと将来のことを考えてそういうことを決めるのが政治家なわけですから、大学生がまだちょろちょろちょろそんなこと意見いえるような、まだ早いですよ。やっぱ民主主義ってのはポジションとパートが重要で、そういうことをやりたいんだったら、知事になるか、府議会議員になるか、しかるべき立場になってから、発言しないとですね、そらあおかしいですよ。

意見はいいですよ。意見は言うのはいいですけども、今回の改革案に込められた大きな方針とかそんなこと大学生は何もわからないのにですね、そういうことということ自体が、もっと深く考えて、何でこれ今府立大学が、こういう改革案をやっているのか、その深いところをですね、やっぱり考えるのはそれは大学で時間があるんですからもっと勉強してくれっていうふうがいいですね。」（参考 URL <http://www.gikai-web.jp/dvl-osakahu/> 教育常任委員会3月19日）

## ●2010年5月7日（金） 学長会見

5月7日に今回の大学改革に関して12月のアンケートに寄せられた疑問点などについて、理事長室にて会見をさせていただきました。学生自治会は委員長以下7名、大学は奥野学長以下6名が出席しました。この会見の内容はp.11に掲載しています。

## ○2010年5月14日（金） 平成23年度入試は、現状の学部維持へ

大学は、平成23年4月の入学生を対象とした入学試験をこれまで通りの7学部の体制で実施し、予定されていた「学部再編」を平成24年度から行う予定に延期することを発表しました。また、平成24年度の入学をめざしている学生には、オープンキャンパス（8月7日、8日予定）で説明することを発表しました。

## ●2010年5月28日（金） 友好祭1日目 公開シンポジウム「府大改革に望むこと」開催

大阪府大学教職員組合と共同主催で公開シンポジウムを友好祭初日に行いました。多くの方々に参加していただき、有意義なシンポジウムとなりました。

奥野学長の挨拶に始まり、予定にはありませんでしたが学長への質疑応答がありました。学生自治会からは委員長と府大教からは副委員長が活動報告を行いました。さらに、各報告に対する質疑応答や委員長、副委員長に加え経済学部教員である吉田氏が参加したパネルディスカッションを行いました。

## ◎改革のこれから

今年は中期計画の最終年である6年目に当たります。これに伴い大学は大阪府から出された中期目標案を基に中期目標案に対する意見を府に7月中旬に提出します。そうしてできた中期目標には、『学部再編』をはじめとするこの大学改革に関することが記載されるものと思われます。

そこで学生自治会は、5月に開かれた学長会見に続き再度会見を申し込みました。そして、この冊子と一緒に配布しているアンケートにお答えください。その意見を踏まえて、直接大学に訴えてきます。

## ◎用語説明

### ○大阪府戦略本部会議

平成20年8月、知事的意思決定をサポートする機関として「大阪府経営企画会議」を設置しました。その後、平成21年4月に、同会議を発展的に解消し、府の組織としての「決定」を担う機関として「大阪府戦略本部会議」を設置しました。

限られた財源や人員等の経営資源の重点化を図り、将来の大阪を見据えて府政を戦略的に推進するため設置しています。その構成は、知事を本部長とし、副知事、政策企画部長、総務部長がメンバーとなっています。また、審議案件を担当する部局の長などが会議に参画します。（大阪府HP参照）

### ○大阪府立大学のあり方

昨年、9月8日の府の戦略本部会議にて討議用資料として提出されました。その内容は、“第1章 府大の現状と位置づけ 第2章 経営と改革の評価 第3章 問題提議 今後の可能性”です。詳細は<http://www.pref.osaka.jp/attach/9461/00000000/212201siryo.pdf> から見るることができます。また府大は昨年11月にあり方資料に対する見解を発表しています。詳細は<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/change/pdf/200911.pdf> で見ることができます。

## ○運営費交付金

国の組織の一部だった国立大学が2004年に法人化されたことを受け、各校の収入不足を補うために国が出している補助金が運営費交付金です。現在は各校の学生数などに連動して配分されています。ただし、公立大学法人への運営費交付金は、地方公共団体からの運営費交付金という形で拠出されています。

地方公共団体は、その主な財源を地方税と地方交付税に拠っています。公立大学を有する地方公共団体に対しては、大学を設置し管理するための経費が普通交付税額の算定において基準財政需要額に算入される形で措置されています。地方交付税はそもそも地方固有の財源であり、その用途は地方公共団体の自主的な判断に任せられていますが、地方公共団体の多くは、地方交付税で措置された大学費相当額以上の費用を自らが設置した大学に支出しており、公立大学は地域の高等教育機会の確保や知的拠点としての役割を担っています。

## ○大阪府立大学の改革指針

今年の2月に府が「大阪府立大学の改革指針（案）～変革と挑戦～」を示し、3月に「大阪府立大学の改革指針」を策定しました。この改革指針を基に府大改革が進められます。詳細は [http://www.pref.osaka.jp/attach/3720/00015266/fudai\\_kaikakushishin2203.pdf](http://www.pref.osaka.jp/attach/3720/00015266/fudai_kaikakushishin2203.pdf) から見ることができます。

## ○大学改革推進本部

理事長が本部長を務め、教育体制再編、教育組織改革、事務組織改革、入学試験改革の4つの部署を設けています。そして、それぞれの部署にワーキンググループを設置し、改革案を練っています。また、先日特命副学長を任命しました。特命副学長の役割は大学改革における主に文部科学省への認可等の手続きに必要な事項について、学長を補佐し、不在の際は代行することです。

## ○大阪府立大学問題を考える会

旧府立系4大学（旧大阪府立大学・旧大阪女子大学・旧大阪府立看護大学・旧大阪社会事業短期大学）の卒業生有志で2009年12月7日に結成。大阪府に対して『要望書』を、府立大学に対して『公開質問状』を提出するといった活動をしています。

（大阪府立大学問題を考える会 HP 参照）

## ○中期目標

大阪府知事（設立団体の長）は、地方独立行政法人法第25条第1項の規定により、6年間に於いて公立大学法人大阪府立大学が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）を策定し、当該公立大学法人に指示します。また、策定に当たっては、同法第25条第3項及び第78条第3項の規定により、あらかじめ、当該公立大学法人及び大阪府地方独立行政法人評価委員会の意見を聴き、大阪府議会の議決を経ていきます。（大阪府 HP 参照）

## ○中期計画

大阪府立大学が大阪府から提示された中期目標を基に策定した6年間の計画のことです。

# 学長の改革に対する考えと想い



5月7日に今回の大学改革について、大学と、理事長室にて会見をさせていただきました。学生自治会は委員長以下7名、大学側は奥野学長以下6名で行いました。ここでは、その会見の内容を取り上げたいと思います。この会見の記事は学生自治会のホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

## 1. 「府立大学のあり方」資料に対する見解と大学改革案の相違について

資料に挙げられていた一方的な文系不要論を見解では否定しているなど、11月30日付けで府に提出した見解は資料に反対の立場を示していました。しかし、12月に公開された大学改革案では見解よりも資料を重視したと思われる内容が示されました。一体なぜ、見解を示しておきながら、それと全く逆の内容である大学改革案を作成したのでしょうか。

### 奥野学長

12月に出した改革案は見解を生かして作ったものではなくて、9月に戦略本部会議で出されたものを各部局に示して、意見をお願いしました。その結果を見解にまとめたものです。

この厳しい状況の中で、なぜこんな改革をするのかということはみんなに言われていますが、府立大学として、生き残る作戦の一つとして考えて下さい。

知事は「府立大学はいらない」と言いましたね。それを何とか押し返す方法として、知事が「文系；経済はいらない」と言ったのに対して、私は、「文系全部をつぶしたら3年は生きてても、10年たったら大学つぶれます。それに、“一定程度”文系は理系の人を育てるのに必要です。」と言いました。その結果、12月に改革案を出して、その後に戦略本部会議でその案が話し合われました。そして「府立大学を続けてください。」という結論になったわけです。

要するに、見解と改革案の間にそういう相違があるのは、それが反映されない仕組みで出したからです。平行で出したからです。

### 学生自治会

その“生き残る”というのは、9月のあり方資料で指摘され、大学改革案でも示されていた「全入時代が…」などということに関してですか？

### 奥野学長

そうではありません。知事は「府立大学はいらない」と言った。でも、私たちがこういう改革でこういう風にやらせてくださいって言ったら、知事が「分かった」と言ったのです。

府大が改革して、本当にいい大学になってくれるんだったら、やりましょうということになったのです。

すなわち、“生き残る”というのは、府立大学がずっと続けていけるということです。

## 学生自治会

世の中の流れとしては、本来理系の大学も文系もどんどん取り入れていって、文理融合していこうみたいな傾向があると思うんです。例えば、東京工業大学には“四大学連合”といっていて、東工大や東京医科歯科大の理系の学問と、一橋大や東京外大などの文系の学問を融合させて、時代を引っ張っていくようなリーダー性を持った人材を育成しようという試みが行われています。そういった時代の流れがある中で、今この学部再編の中で理系に絞られていくというのは、時代に逆行している感がちょっとあるんですけども、その点についてはどのようにお考えですか？

## 奥野学長

現代システムという新しい学域、部局を作りましようと言ったのは、実は今あなたが言った、そのことを実現するためです。

知事に「文系全部つぶしたら大学が潰れます。」と言って、「府立大学の中の中核になる、融合領域を実現します。」と説明しました。それに東工大は、大学を越えてそういうことをやっていますから、ちょっと言葉は悪いかもかもしれませんが、「正直、そんなに効果あるの？」っていう風に感じますね。(笑)

でも府大は大学の中でやるわけですから、こういう大学にしたらこの大学は強くなれますと、自信を持って言えます。「府大でやろうとしていることは、東工大ではできません。」と私は言いました。府立大だからできるんですと言いました。それで知事は、「がんばってください。」と言ったのです。

## 学生自治会

ただ3月の指針の中に、現代システム科学域のキーワードが色々あったと思うんですけど、それを見る中では、「どう見ても文系色が薄いな…」と感じたのですが。

## 奥野学長

それはカリキュラムを見ていただいたらよくわかると思います。ただね、知事は「東工大やMIT<sup>(注1)</sup>には文系がないじゃないですか。」と言っていました。

(注1) MIT：マサチューセッツ工科大学の略

## 学生自治会

それは認識不足ですね。(笑)

## 奥野学長

そう。(笑) 東工大には「人間行動システム」とか、ちょっとしたら見えないところに思いっきり文系の専攻がありますし、古文や漢文で有名な人とか、源氏物語で有名な人とか哲学で有名な人とかいっぱいいますよね。MITは、もっとはっきり人文科学・社会科学、経営といった文系の学部がありますよね。

知事の頭の中では、府大がMITとか東工大みたいになっただらいいと思っているみたいです。「西の東工大」になってくださいとか、新聞に出ていました。

今、カリキュラムとか入試の方法を作っていますが、府立大学をめざす受験生に「府立大学はこんなに新しくなるんです。文系志望の人でも受けられますよ。」というのが一目でわかるようなものにしたいと思っています。でも、見たところ理系のような、“環境”と“情報”とそれから“マネジメント”という言葉を出しましたから、うまく伝えられよう、がんばらねばなりません。



## 2. 教員数の減少による教育の質の低下について

大学改革案を示し、学部再編を初めとする大学改革への取り組みを進める過程で、自主的に大阪府立大学を辞めていく教員が現れ、教育の質が低下することは昨年の時点で指摘されていました。新年度が始まった現在、辞めていく教員は現れたのでしょうか。特に例年より多かったのでしょうか。（もし、教育の質が低下したのならば）教育の質が低下した事に関して、何かそれを補うための対策などはありますか？

### 奥野学長

現在のところ、大学が改革していくので辞めますといった先生はいないと思います。ただ、大学の教員というのは流動的なので、他の大学へ移る教員はいつもおります。

今の学生のみなさんは、7つの学部7つの研究科で入学していただいているんで、それは守られます。もし誰か教員が辞めるとしたら、すぐにそういう授業が担当できる先生を補充するか、別の人が担当するとかを考えます。そういうことで教育の質が低下したということはないと思います。学生の皆さんの中に心配があるのは理解しますが、大丈夫です。

### 正木理事

私は人事課を担当しておりますが、定年でお辞めになる先生の代わりに先生は、必要性を見てちゃんと公募しています。それに、公募をすると相当の倍率で優秀な若い先生方が応募されてますんで、そういうことで教育のレベルが低下することはないと思います。

### 学生自治会

例年に比べて、今年は多かったんですか？

### 寺迫理事

例年、年間20人ぐらいは移動していると思います。今年はそれより少し多いくらいだと思いますから、特に変わっていません。

### 高橋副学生センター長

本当は改革がいやで辞めている人もいるかもしれないけど、先生の異動が流動的だというのはこの大学でもあることです。だけど、大学の中でその先生がいなくなったから、そのゼミができなくなったというのは大学としてまずい。むしろ、それは組織としてまずい話なので、この改革とは別にきちんと教育の質はある先生がいなくなっても保障しなくちゃいけない。だからそれはこの改革ではなくて、大学としてきちんと教育の保障はちゃんとしなくちゃいけません。

### 学生自治会

ただ、言い方は悪いかもしれませんが、これから大学で文系の学問が縮小されていくなかで、どうしても溢れてしまう先生もいると思うんですけど。

### 奥野学長

もし今まで例えば、言語の研究をしていて、これから教養教育しかできないのならいやだといって出て行く先生はいるかも知れませんね。

### 学生自治会

教養科目だけになりそうな先生の研究基盤というのはどういう形で残されるんでしょうか？

#### 高橋副学生センター長

研究と教育が一応分かれる、今回の改革で教育組織と教員組織が分立するというのは、みんな知ってると思いますが、4 学域というところの教育組織と、教員は研究というところでまとまった教員組織に属しているわけですね。研究のほうは、そちらになりますね。

#### 奥野学長

大学院のことも言わなきゃいけないかも知れませんね。大学院は、そのまま残していくことにしています。

#### 学生自治会

とりあえず4年間は、ということですね。

#### 奥野学長

私は、とりあえず4年とは言ってないんですけど、みんなそう思ってるみたいですね。

#### 学生自治会

説明会のときにおっしゃっていたように、現在の学部生が卒業するまでは残しますってことだと思うんですけど。

#### 奥野学長

そうですね。残すというのは、保障すると言いたかったのですが…。だから、研究環境はそんなに変わらない。確かに少なくとも4年間は変わらないと考えてください。

### 3. 改革に関する意見、特に反対意見の扱いについて

大学改革案を公開してから今に至るまで、教職員や学生をはじめ様々な方から大学改革に対する意見が寄せられたと思います。そのような意見を一つ一つ吟味し、適宜改革に反映させていくことは大学自治にも通じるとても重要なことです。現状をみていると、大学は学内全体で議論するようなことをせず、トップダウンで早急に決めることに必死になっている様子が伺えます。大学改革は、本来十分な議論に議論を重ねて進めていくはずで、以前から何度も言われていることだと思いますが、もっとゆっくりと改革を進めていくべきではないでしょうか。

#### 奥野学長

みんなに意見を聞かずに勝手にやってるっていう、そういう印象があるってことですか？スピード感がすごいので。これでいいんですか？っていう質問ですか？

トップダウンというのは、法人化がひとつの契機ですね。昔はどこの大学でもボトムアップで意見を集めることしかなかったんです。昔はたくさんの委員会があって、何年もかかっているうちに、経済不況がきて計画が全部だめになったりでした。大学ってそういうのを昔から何十年も続けてきたんです。これでは例えばグローバル化し、しかも変化の激しい社会の中では生きていけないと考えるようになっていきます。これは一つの理由です。それなら大学は法人化しましょうっていうことになり、法人がいろいろ決めていけるってことになります。



府立大学は、国立大学がやった次の年に法人化しようということになりました。大阪府という設置団体が、運営費交付金という形でお金を出してくれる大学です。これを使って大学を運営していくわけです。法人化したことで、学長はじめ理事の意見が強く反映される、今までになかったものが始まりました。そういう流れの中で違和感を感じている先生は、昔とやり方が違うからでしょう。特に今回は9月に出た意見を受けて12月に案を出す。だから、今回のやり方には少々無理があって、みんなの印象を悪くしているかもしれません。でも、できるだけことは努力してきましたし、みんなの意見を無視していいとかはまったく思っていません。もちろん、学生の意見は大切だと思っています。

#### 学生自治会

そういったことに関してなんですけども、こういう意見交換の場とかを使って、この改革に関してもうちょっとオープンにならないのかなと思うんですが…。

#### 奥野学長

まだ決まってない事が多いので、公式な話は難しい。でも個人的な話ならできますよ。どうしても公式に発言するときは、話せる段階にないとできないんです。つまり学長として無責任に個人的な話はできませんからね。

#### 正木理事・寺迫理事

たくさんの委員会があって、たくさんのワーキングがあって、たくさんの先生方が関与されてますけど、私たちはその内容についてはブレーキはかけてません。だからすべてがトップダウンというわけではない。ただ、先生方も私たちと同じだと思うんです。「議論はしてるけど、その内容は明日変わるかも知れん…」って。なかなか内容が伝わっていないのは、検討していく中で変わっていく事も多くって、誤解をまねくかも知れません。

#### 学生自治会

でしたら次に改革推進本部で議論されている内容をオープンにするとしたら、いつごろになりますかね…。というのも、今度文科省に申請されるのもそうですし…。

#### 奥野学長

ここが微妙です。言われているように設置認可申請は5月末までってなっていますが、出すかどうかというのはまだ決定してないですね。5月末<sup>(注2)</sup>になったらちゃんとしたことが話せます。

(注2)5月17日に来年、平成23年度は従来どおりの学部が継続される事が決定しました。

## 4. 大阪府が公開した「大阪府立大学の改革指針」について

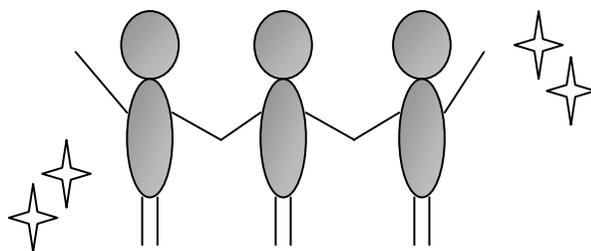
改革指針の授業料・入学金のあり方の中で、「教育設備負担金等の徴収について、検討する。」と記述されています。負担金を実施された場合、それは実質的な授業料値上げと同義であり、学生の負担が増すことが懸念されます。このことについて大学はどのようにお考えでしょうか。

#### 奥野学長

それは、大阪府と大学が話し合う中で検討項目として上がっているだけで、別に上げることに賛成しているわけじゃないです。ただ獣医は実質上、上げましたね。「他はどうなんですか？」ってことで書いてあると考えてください。

## 学生自治会

学生としては、中期計画とかに対して積極的に意見を発していきたいと思っているんですが、そういったことをしていくために、会見を定期的に行けるといいんですけど。



## 奥野学長

年度目標は、学生も見れますね。HPに出るのですか。今年の目標はこんなんですけど、って学生に見せることっていうのは、今までにはやったことはないですね。

だから決まったときに、「決まったよ」っていうか、学内の先生に話すときに君たちにも一緒に話す機会っていうのができるといいですね。別に秘密ではありませんから。僕が勝手に言って、後で怒られるのもいやだけど。(笑)勝手にいいよと言ってしまうのもあれだから。僕個人として前向きに検討します。

## 正木理事

自治会だけじゃなくて、学生全員に見える形にするのが好ましいですよ。

## 高橋副学生センター長

学生ポータルなんかで見れるようにするのもいいかもしれませんね。

## 学生自治会

学生全員が見れるような形にしていだけるのでしたら、それが一番いいですね。

## 奥野学長

みんなが一生懸命読んでくれて、意見を集められたらいいなあ。

## 最後に一

### 奥野学長

先生たちも全員が賛成してくれているわけではなくて、反対している人がおられることはよく知っています。ただ、ここまで来たんだからなんとか本当にいい大学を作りましょうねって言ってくれている先生がほとんどです。何とかよい、強い大学になるように頑張りたいと思います。

みなさんがここまでやってきてくださった大学を続けていけるようにしていきたいと思っているので、ぜひよろしくをお願いします。

# 学生自治会から大学への提言

大学改革案を発端とする学部再編問題などの様々な問題。大学は、この問題について学生の意見を聞くことにあまり積極的でなく、学生が声を発しにくい状況にありました。そこで、学生自治会が声を大にして意見を言うことも可能でしたが、この大学改革に関して学生自治会が考えている方向と学生が納得できる方向が乖離している可能性もあり、これまで大学に対して強く意見することができませんでした。しかし2010年度前期自治委員会総会決議によって、この大学改革に関して学生自治会が大学に訴えていく方向性が定まり、学生の総意として大学に訴えることができるようになりました。

そこでこの決議を基に、学生自治会は学生目線からこの学部再編問題を解決し、さらによりよい大学にするために大学に提案を行います。そして、具体的に次の3点について大学に訴えます。

1. 現代システム科学域の存在価値を高めるために、学部再編によって実質的に解体・消滅するとされる3学部（経済学部・人間社会学部・理学部）で行われている学問を可能な限りそのままの形で学域の中に移行すること。

→学生自治会が12月に行ったアンケート結果では、「文系の学問を専門的に学べる方がいい」「総合大学だからこの大学に入った」などの意見が多く集まりました。また、現状として近年、多くの大学が少子化時代を迎えるにあたって、総合大学化・新学部の設置を行い、自大学のブランド価値を高めようという大きな時代の流れがあります。このように学生も、また時代も総合大学を求めている中であえて理系を中心とした大学へ再編するという、時代に逆行している改革方針に疑問を抱いています。また学生自治会は、学部再編によって設置される文理融合型の学域「現代システム科学域」は、文系の専門的な学問や自然科学の原理を追究する学問がはっきりと大学に存在することで、教える・研究する学問としてその厚みが増し、存在価値が高まると考えました。

これらを踏まえて、現在の学部の形をそのまま残して、それに加える形で「現代システム科学域」を設置したような、そういう新しい学域制に移行することを大学に訴えることも可能でしたが、8月のオープンキャンパスで高校2年生以下に対して、新生府立大学をアピールする予定であるということもあり、今むやみに今の

学部を現行どおり学域制に移すことを要求すれば、長期的に見て大学に大きな損害を与えかねません。大学の重要な構成員の1つである学生として、大学に大きな損害を与えることは避けなければいけません。

そのような状況で、この大学が総合大学であり続け、なおかつ大学の新しい試みの価値を高めるためにはどうしたらよいかを学生自治会で考えた結果、学部再編によって実質的に解体・縮小するとされる3学部（経済学部・人間社会学部・理学部）で現在行われている学問をできる限り全て、予定されている学域の中に移行することが、学生の立場から見た最善の策と考えられました。現在、新しい学域学類の内容は固まりつつありますが、細かいカリキュラムや科目などの情報は詳しく公開されておらず、まだまだ検討段階であることがわかります。それを踏まえると、オープンキャンパスで広報されるのは、学域・学類の枠組みとその理念が主たる内容になると考えられます。そのような状況から、その具体的な内容に対して学生が意見しても大学に損害を与えることもなく、この要求は叶えられうると考えました。よって、学生自治会はこの点を大学に強く訴えていきます。

2. 学生の声によって、授業の質やカリキュラムをよりよいものにしていくために“学生・教職員勉学環境改善委員会<sup>⑨</sup>”を設置し、学生の本分である勉学に関して、積極的に学生の意見を聞くことのできる仕組み作りをすること。

→学生自治会は、学生や教職員が十分に意見できない環境で計画が進んでアウトラインが決まってしまった、今回の大学改革のようなことが二度と起こらないように、学生が学問についてしっかり大学に意見をできる場所が必要と考えました。

現在、学生自治会を含め学生団体連絡会議に参加している各団体は、月に1度学生センターとの話し合いを行っていますが、これは大学との情報交換を通して学生団体との円滑な連携を図るためのものです。しかし、今回の大学改革問題の大元は、大学が“大学での学問”をどのように考えているのかということにあるので、こういった問題は、時間の限られている学生センターとの話し合いでは十分に議論できません。

そこで、大学の高等教育開発センター内に“学生・教職員勉学環境改善委員会”を設置して、教員や大学執行部と一緒に“学問”について継続的に話し、よりよい勉学環境について考える機会を設けることで、大学と学生の相互理解が深まり、よりよい授業・カリキュラムの実現が達成されると考えました。

⑨ “学生・教職員勉学環境改善委員会”とは“学生・教職員勉学環境改善委員会”では、主にFDと学習環境改善（カリキュラムや様々な学習設備、シラバスなど）について、学生と教職員の皆さんとで一緒に検討したいと考えています。

FDとは“faculty development”の略で、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称です。府大でも、高等教育開発センターで私たち学生に対して授業アンケートを実施し、学生の多様なニーズをくみ上げ、授業の改善を行うといったFDを行っています。

しかし、みなさんもお気づきかとは思いますが、科目によっては授業アンケートの回答数が極端に少なかったり、せっかく多くの声が集まっても、アンケートで指摘している点についてなかなか改善されなかったりと、学生と教員のすれ違いが存在します。そこで、高等教育開発センターの中に学生と教員が一緒になって「よりよい授業」について話し合うことでより効果的な授業改善活動を行うことができ、私たち学生はよりよい学習環境で学ぶことができるようになると考えました。

学習環境改善活動は、主に現在の学科のカリキュラムの向上や、教室や実験室などの学習設備の改善、学習する際のきちんとした指標となるようにシラバスのさらなる充実を図るなど、学生と教職員がともに学生の学習環境の向上について考え、それを実現させていくことが目的です。

このような、FDや学習環境などの改善に学生が参画するという試みで有名なのは、岡山大学の「学生・教職員教育改善委員会」です。委員会は現在、「授業改善」「システム改善」「学生交流」3つのワーキンググループ(WG)で構成され、各学部から推薦された1、2回生の委員と任期を終えた後も活動の継続を希望した3回生といった学生と教職員が一体となって、教育改善活動を行っています。例えば、以前設置されていたシラバスWGでは、学生が使いやすいように冊子のシラバスの改善に取り組み、新授業提案WGでは、学生発案の「ドラえもん科学」や「知ってるつもり？コンビニ」などのユニークな授業が提案され、実現しています。

3. この大学改革によらなくても、実質的な教育の質や教育効果の低下が起こらないように常に努めること。

→大学は、現在の学部生に関して「卒業するまで今のままの学部・学科で勉強や研究をすることができる」ことを保障しています。しかし、この大学改革に賛同できないといった理由でこの大学を去る教員が出てくることは容易に想像されます。この点においては、5月の学長会見の中でもその可能性を大学は認めています。そして、そういった理由などで教員に欠員が出ると、開講できる科目数が減ったり、欠員になった分の授業を他の教員がつとめたりして、表面上の教育を保証していても実質的な教育の質が低下し、私たち学生が不利益を被ることが考えられます。その他にも、新しい学域になることで、再履修の科目を受講しなくてはならなくなったとき、カリキュラムは保証されていますが、その科目が開講されるかどうかは保証されていません。これは、その学生から学ぶ機会を実質的に奪うことになってしまいます。これも教育の質の低下といえるでしょう。

また大学は、この不況の社会情勢で経済的に困窮し満足に勉強できずに勉学の成果を発揮

できていない学生に対して金銭的な援助を、予算にまだゆとりがあるにもかかわらず、行っていません。そしてさらに、そういった経済的に困窮している学生がいる中で、大学は教育・研究設備の充実を図るため、「教育設備負担金」の徴収の検討を行うとしています。これが実施されてしまうと、実質的な学費の値上げに相当します。この2つを踏まえると、経済的に困窮して、費用が払えず勉強ができる環境でなくなり、結果として授業料減免制度による援助を行うという成績規準に満たない学習成果しかあげられない状況に陥り、大学を辞めなければならないような状況になる学生が増加すると考えられます。すなわち、これはこの大学の学生に対する学習環境を悪化させるものであり、教育効果の低下を招くことになると考えられます。

学生自治会は、このような実質的な教育の質の低下が起こらないように、その維持を大学に強く求めます。

以上3つが学生自治会から大学への意見です。基本的な方針については、2010年度前期自治委員会総会決議によって定められていますが、具体的な部分でこの提案に関して、「もっとこうした方がいい」、「こういう視点もある」などの意見がありましたら、この冊子と同時に配布しているアンケート用紙にぜひご記入ください。

ぜひ一緒に「**みんなが納得する大学改革**」を目指しましょう！

## 改革についての



# アンケート結果

昨年12月、学生自治会は中百舌鳥・りんくうキャンパスの学生を対象に、現在大阪府立大学が行おうとしている大学改革について、アンケートを実施しました。アンケートの項目は以下の通りです。

1. 大学側は改革案の中で、現存する7つの学部を、現代システム科学域を中心として工学域、生命環境科学域、地域保健学域の4つの学域に編成し理系特化型の大学を目指しています。この件についてどう思われますか。
2. 大学側は初年度教育の体系化、外国語教育の高度化、基礎教育や専門教育の充実、他大学との連携、また、教育研究の質の向上のために教員評価制度を確立するとしています。この件についてどう思われますか。
3. 大学側は組織の仕組みを点検し、無駄を省くとしています。具体的には府派遣職員の削減や業務委託、教職員の削減などを挙げています。この件についてどう思われますか。
4. 改革案に関することで1~3に挙げられていない内容や、学生自治会に行ってほしい活動などがあれば、自由にお書きください。

このアンケートでは各項目について、「賛成・反対・どちらでもない」を選択し、それに対する意見を自由記述形式で答えていただきました。寄せられたアンケートの総数は、174枚とアンケートの対象学生数に比べると非常に少ないですが、よく考えられている意見が数多く集まっています。

なお、ここでは紙面の都合上、寄せられた意見の全てを掲載することはできませんので、一部の意見を抜粋して掲載してあります。アンケートで寄せられた意見は、学生自治会室（B12棟学生会館2階）までお越しくださいれば、いつでもお見せすることができます。また学生自治会のホームページ（<http://zichikai.ehoh.net/>）にて、ここで取り上げている以外のアンケート結果も掲載する予定ですので、そちらもご覧ください。

# 1. 学部再編について

賛成 : 25 (14.4%) 反対 : 110 (63.2%) どちらでもない : 39 (22.4%)

## ●賛成

・理系特化型にするのは結構なことだが、今工学部の偏差値が高いのは中期日程を採用してるからだ。だから、このレベルを維持、もしくはこのレベル以上を目指すなら、中期日程を続けることが必要だと思う。

・削る事によって教育としてのバランスを欠くことは否めないが、生徒の絶対数が減っており、現状は否定されているのならば、変化は必要なものであろう。

## ●反対

・理系に特化する必要性が感じられない。他大学との重複に何の問題があるのか。地域貢献するといっても人社会学部長の言うように工学部などがそれを果たせるとは思えない。(府民の実感として) また人間社会学部生として個人的にだが、自分の学問への想いが否定されたと思えない。大学として無責任すぎる。もしこのまま学部再編が行われるなら、恥ずかしくて府大卒とは言えない。他大学への編入を考えたい。

・他大学ではむしろ総合大学化への取り組みがさかんなのに逆行している。人社では、すばらしい先生のもと貴重な学びの場もてている。そのすばらしさを無視して切り捨ててしまうことは、学力向上を目指す知事の方針とも矛盾している。科学技術の発展のみを追求して人間のあり方の本質を問わないようでは将来が思いやられる。

・学部を再編すること自体は大学にとってめずらしいことではないので、よいと思いますが、総合大学でなくなることは反対です。私は大学に工学だけを学びにきているわけではなく、実際経済などの授業もとっているし、学びたいから。

## ●どちらでもない

・経営状況の悪化で潰れる大学もある中、府営の大学なので府の財政状況から運営費交付金の削減により、経営方針を変更することは仕方のないことであると思う。ただ、府大のように有名で一種のブランドであり、受験生も毎年府内外を問わずに多く集まる大学でこのようなことをする必要があるのか疑問に思う。確かに、府の交付金に頼った経営では何か言われたら従うしかないのかもしれないが、人の集まる大学で実際に生徒も集まっている学部を交付金が減るから廃止するというのは少し納得がいかない。自分は廃止される予定の人間社会学部の人間科学科の生徒だが、受験する際に「市立大学の生活科

学とは学びたいことが若干違う感じがして、文学部の心理学は文学部の中なのであまり専門的に勉強出来ないのでは」と考え府大の人間社会学部の人間科学科を受験した。このような考えの人もいるのではないか、市大とかぶっているというのは短絡的ではないか、特に近年心理学といった学部は人気なので廃止するのはどうかと思う。

・理系特化型にすること自体はかまわない。しかし、幅広い知識を養成することと理系特化とはやや矛盾を感じる。専門性を上げようとするとうどうしても領域は狭くなる。その辺の構想をはっきりさせてほしい。私個人としては大学はやはり何かに特化して専門的な内容を学ぶものだと思う。なので、幅広い知識の養成には反対である。

## 2. 教育研究の質の向上について

賛成 : 82 (47.1%)    反対 : 17 (9.8%)    どちらでもない : 75 (43.1%)

### ●賛成

・教員の中には給料泥棒と思われるほど教えるのが下手なうえに学生の要望を聞かない数学の非常勤講師や一般教養の講義で自分の好きなように趣味を話しているだけのものがいたりする。

・初年度教育の体系化は行った方がいいと思う。初年度に学ぶ教科とそれ以降の年度に学ぶ教科の連携がとれてなくて、基礎科目を習っているのに応用科目をいきなり学ぶ場合も多々ある。また、外国語教育の高度化も賛成。英語授業がおざなりすぎる。

### ●反対

・教員評価制度というものはあまり好ましくない制度である。現在、一般の小中学校などでこれが取り入れられたことによる弊害が問題になっているのではないかと、評価対象になることには力を注ぎ、そうでないことには力を注がないだとか、教育の質を落とす結果を招いているという指摘も多いし、教育といったものは数値化できないようなことが多いのではないかと、実際にどのような基準で評価しようというのか。一般化出来る基準などあるというのか。その他については特に反対理由はないので、行うというのなら行えば良いだろう。

・学生が評価する場合、自分の都合の良いようにしてくれる先生に評価を高くしてしまう人が多いと思うので正しく評価できないのではないかと、先生も評価とりにはしないのではないかと。

### ●どちらでもない

・部局の仕切りを取り除くことで学生が様々なジャンルの講義を受けることができるようになる事はいいことだと思う。教育の質の向上など見ている、取り立てて反対する要素は見あたらない。

ひとつ言うとすれば、教員評価制度について何を基準に評価するのかが分からないことである。何が社会に貢献できるか分からないのに（研究とはそういうもの。はじめから予測できるなら研究する意味が無い）お金にならない研究はしない、と言う金儲け主義に結局走ってしまうということなのか？

## 3. 派遣職員・教職員の削減について

賛成：45(25.9%) 反対：41(23.6%) どちらでもない：88(50.6%)

### ●賛成

・業務委託は良い案。授業が苦手な先生もいる。専門基礎までなら、外部に委託すればよい。

### ●反対

・今時、合理化で教員の削減・委託は仕方ないし、すべきである。しかし教育機関の中核となる教員を減らす事は何のための大学なのかとなってしまう。

営利目的の私立大では学生一人あたりの教員数が少なく、教育の質に問題があるとも聞く。府大がそうならないことを願う。

・無駄を省くことは絶対必要だが、教職員の削減することは反対。教職員は大学の財産であると思う。大学力が落ちる原因となる。

### ●どちらでもない

・そのせいで、大切な、重要な人材が失われていくのが悲しい。人と人とのつながりは、お金ではかえられないし、じっさいそれは、経費としては無駄につながっているかもしれないが、机上しかみてない発言にほかならない。



## 4. その他

・急ぎすぎ。橋下に脅されて、急遽作った生き残り案にはあまりにも犠牲が多すぎる。もし、知事が橋下じゃなかったら決してこんな状況になってないはずだ。

文系学部は研究費用や敷地も理系に比べて少なくすむと思う。だからなんとか残してほしい。理系に特化することは大学のカラー、部活のカラー、キャンパスの雰囲気全てを理系にってしまうことだ。それが悪いとは言わないが、府立の総合大学というブランドや雰囲気を誇りに思っしてほしい。学長にも先生にも知事にも学生にも!!

・学校のえらいさん何人かによって学校の将来のことを決めるなんてありえないと思われる。学生は学校の主人であり、学生のために学校は存在する。もっと積極的な行動をとるべきだと思う。

・現在の学生が在籍する限り、文系も継続するというが実際このような動きになると、優秀な教員の方が他大学に移ることは目に見えている（だれもなくなる学部に残ろうとは思わないと思う）とすれば、授業の質が継続される保証はなく、実質、現在校生の利益が守られない。大学院に関しても同じことである。枠として残してもらっても、実を伴っていない案は、文系学生にとって不利益以外の何物でもないと思う。「在籍」ということと「学ぶ」ということはイコールではなく、質の高い学びを確保するための具体案を示してほしい。

府民への公開講座などは必要だと思う。（ランクアップしたこともあるし）また、大阪府にアピールするためには、マスコミ利用などわかりやすいアピールもしていく必要があるのではないかな。

・府からの交付金が削減され、なおかつ黒字で他学部に戻せる金のある文系を縮小することで満足な研究ができるかっていうのが疑問です。そのまま研究が中途半端になり、今度こそ他大へ統合等により府立大がなくなるって可能性もないとは言いきれない訳ですがそのところはどなんですか。

ちなみに私は大学に関心があるってわけでもないで今回の問題はどなるのか興味があるかっていうと微妙ですがただ見守るだけです。あと今回は反対派の意見も多いみたいですが、総合大学じゃなくなるのが嫌、文系がなくなるのが嫌っていうのをよく聞くんですけどそういう感情論で言っても何も変わらないんじゃないかと。

・危機感を持つ学生は多いのだろうが、それをまとめる存在が必要。その役割は自治会が適任のように思う。学生一人一人は弱いけど、束になって行動を起こせば世間の注目も集まり学生の声も通るというものではないのだろうか。

・自治会の作った冊子を読み、大学というのは常に改革に積極的であるべきだ、という意見に驚いた。それを今、なくなろうとしている学部の教員が考えていることに。大学をよりよくすべきだと思う反面、保守的な気持ちになって何事も無く今の現況が続けばいいと思っている自分の考えを反省した。

そもそも大学は大きな研究機関であると同時に教育機関であり、このことは単に府の未来だけでなく日

本の将来を背負っていると言える。今の時代は大学のある土地（自分の行った大学のある県付近）で就職することが多いので、府大が優秀な人材を輩出する事は大阪府の発展に繋がり、府の発展は日本の発展に繋がる。

どこの学部卒か、ではなく、府大卒であることが高く評価されるような大学を目指してほしいし、そのような大学でより多くの高邁な思想を持った人材を育成することが大学の使命であろうと思う。

金がないから教育費を削ろうという安易な考えに憤りを覚えるし、そのあまりにも先が見えていない、非建設的な政策には情けなささえ感じる。本当に大切なことを見失わないでほしい。



以上のように昨年12月に実施したアンケートでは、学生の多様な意見を集めることができました。みなさんご協力ありがとうございました。そして学生自治会は、このアンケート結果を基に府大改革に対する活動を今まで行ってきました。(P. 6～参照) またこのアンケート結果は、3月19日に行われた大阪府議会の教育常任委員会の質疑応答において、共産党 山本陽子議員が橋下府知事への質問をする際に用いられました。(P. 8参照)

学生自治会は大学に対する意見・要望だけでなく、府大改革に対する意見も普段から意見箱BOX・学生自治会のHPを通して集めています。意見箱BOXは、中百舌鳥キャンパスにはB12棟学生会館1階タダコピ横・C5棟学術情報センター入口付近の2ヶ所、りんくうキャンパスには2階第2講義室前のスペースに1ヶ所、設置してあります。また学生自治会室（B12棟学生会館2階）にお越しくだされれば、学生自治会に直接意見を伝えることもできます。学生のみなさんが改革に対する意見を大学へ伝え、また大学がその意見を改革案に取り入れていくことで、誰もが納得できる、よりよい改革へと変えていくことができるのです。この冊子やその他の情報により、府大改革に対して新たに意見を抱かれた方は、どんどん学生自治会に意見をお寄せください。



みなさんの意見をお待ちしています！！

## 公開シンポジウム

# 「大学改革に望むこと」



友好祭初日の5月28日に公開シンポジウム「大学改革に望むこと」が中百舌鳥キャンパス学生自治会（以下、学生自治会）と大阪府大学教職員組合（以下、府大教）の主催で行われました。このシンポジウムには、学生・教員をはじめ、一般の方も参加し、様々な意見が交わされました。また、奥野学長にはシンポジウムのはじめの挨拶を通して、直接想いを語っていただきました。

シンポジウムの冒頭の挨拶で奥野学長は、「社会のニーズに合った教育のあり方を考える時だと思う。新しい学域は文理融合とし、分野にまたがって学ぶことができるような学生を育てていきたい」と、自らの学部再編についての想いを語りました。さらに、「学生の意見を聞くことは受け入れている」「オープンな議論には賛成」とした上で「今までにないスピード感があり、そのことが学生に対してトップダウン過ぎるという印象を与えているかもしれない」と、改革の議論が急速に進んでいることに対して理解を求めました。

学生自治会からは、委員長が代表して「改革に関して、府に大学として正当な権利を主張出来ていないのではないか」「学生に対しての説明責任が十分でない。また、学生とともに議論する存在として認識し、改革に関する議論に参加させてほしい」といった意見を述べました。

また、府大教の大久保副委員長は、報告で「全学の十分な議論がなされていないまま改革案が府に提出されるなど、トップダウンで改革が強行されている」ことや「受益者負担制度などは、世界的な取り組みである教育の無償化から逆行している」ことなど、改革の問題点を指摘しました。



## 学生からは こんな声がありました

シンポジウムに出席した学生からは「オープンな議論に賛成とのことだが、関心の高い学生にしか情報が伝わらず、大学側から意見を求めるようなこともない。このような現状は、学生が意見をすることを拒否してはいないが、オープンな議論をしている状態とは言えないと思う」「大学は公共の財産であり、その未来を一部の人間だけで決めるべきではない」といった意見がありました。

さらに、シンポジウムの際に回収した感想文用紙には「改革が社会のニーズに合っていて、学生にとって良いことなら賛成だが、現状そうは感じられない」といった不満や「改革することで何が変わるのか、どんなメリットがあるのかを明確にしてほしい。改革が誰に、どのような影響を与えるのかを調査・検討・報告してほしい」といった要望、「大学からメールを送るなどの情報宣伝やアンケート等の意見収集などを行ったらすればよいのではないか?」といった今後の改革の進め方に対する意見など、様々な声が寄せられました。

大学・学生・教職員、それぞれの立場から生の声を聞ける機会は、現状では多くありません。シンポジウムの中で、様々な意見をそれぞれの立場で共有できたことは、有意義だったと言えます。

しかし、このシンポジウムでも問題提起されているように、大学がこの改革をよりよいものにしていくために全学の意見を十分に考慮して議論を進めているとは言えない状況です。また、学生が大学の重要な構成員であるにも関わらず、大学は学生からの意見収集や学生に向けての情報宣伝に積極的ではありません。学生が大学に対して強い影響力を持ち、こういった問題を解決していくためには、多くの学生の意見が必要です。この改革をよりよいものにしていくために、ひいては私たちの大学をよりよくするために、ぜひ学生自治会に意見を寄せてください。

## おわりに

現在、府大では学部再編が行われようとしています。このままでは、経済学部、人間社会学部、理学部の3学部が実質縮小あるいは消滅してしまいます。

以上の内容を含む現行案は、学生の声がほとんど聞き入れられないまま大学側で一方向的に作られたものです。『大学の重要な構成員』である学生が、この大学改革においてないがしろにされているとして、私たち学生自治会は、大学側だけが主体となっている改革の進め方を問題視しています。

大学の未来をよりよくするためには学生からのたくさんの声が必要です。府大が直面している現状について、学生のみなさんがよく理解して話し合い、そこで出てきた意見を学生自治会にぜひお寄せください。

2010年7月28日 初版 第2刷発行

発行所	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会
印刷所	大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス B12棟(学生会館) 2階 学生自治会室
TEL	072-257-4301 (内線 2745)
FAX	072-257-4301
URL	<a href="http://zichikai.ehoh.net/">http://zichikai.ehoh.net/</a>
E-mail	<a href="mailto:ziren@cd6.so-net.ne.jp">ziren@cd6.so-net.ne.jp</a>

